

# これからの緑の取組[2024-2028](素案)に対する市民意見募集の結果(概要)

## 1 全体概要

### (1) 募集期間

令和4年12月23日(金)から令和5年1月31日(火)まで

### (2) 実施方法

#### (ア) アンケート方式

①個人 5,000人(住民基本台帳の満18歳以上の市民から無作為抽出)

②法人 5,000社(法人市民税課税台帳から無作為抽出)

#### (イ) 公募型自由記述方式

素案の概要版パンフレットに添付のハガキ、Webフォーム、電子メール、FAX

### (3) 回収数

#### (ア) アンケート方式

①個人 1,281人(回収率25.6%)

②法人 939社(回収率18.8%)

#### (イ) 公募型自由記述方式

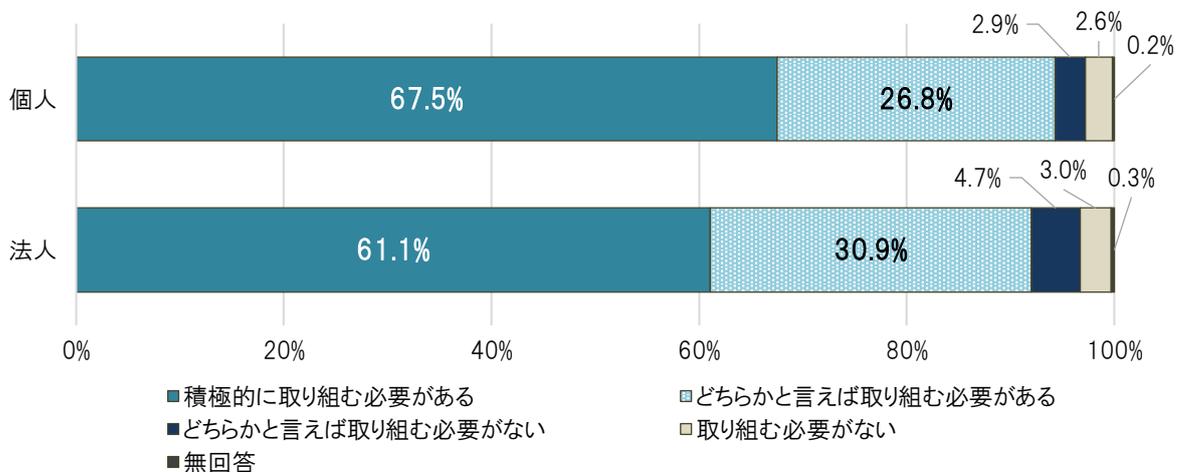
43通(意見総数:93件)

## 2 アンケート方式の結果（端数調整により合計値が100%にならない場合があります。）

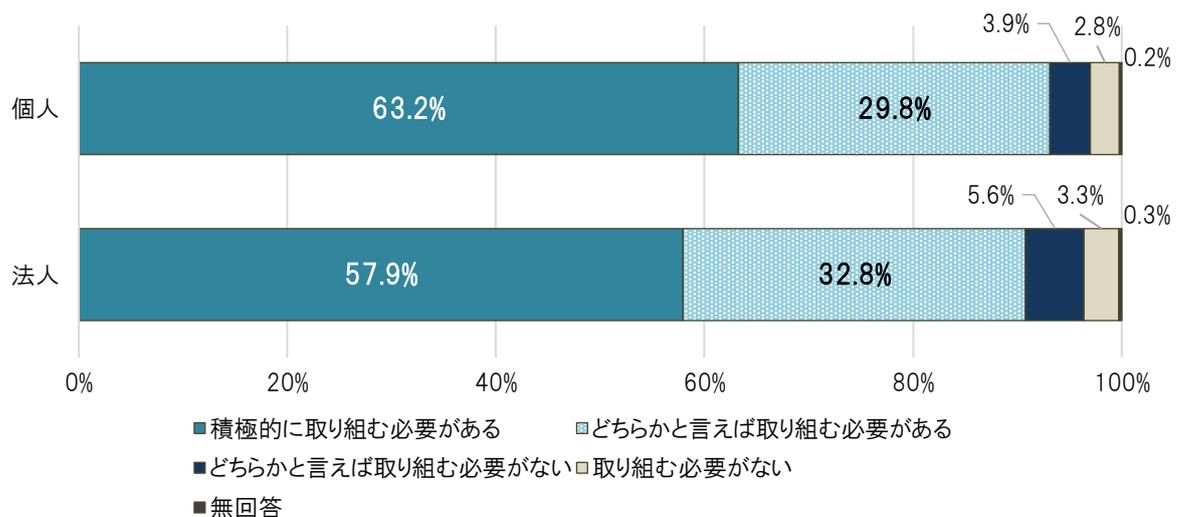
### 取組の目標について

素案で掲げた3つの目標については、個人・法人とも、8～9割の方に「積極的に取り組む必要がある」又は「どちらかと言えば取り組む必要がある」とお答えいただきました。

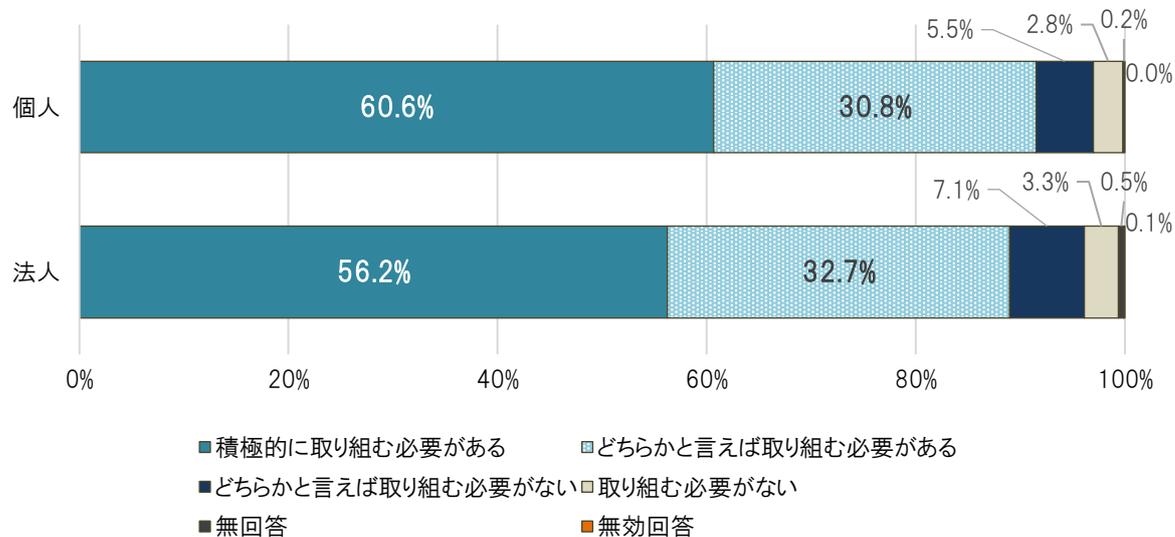
問1. 2009（平成21）年度から進めている「横浜みどりアップ計画」の取組により、樹林地は減少傾向が鈍化している状況です。「これからの緑の取組」では、引き続き、貴重な緑を将来に残すとともに、新たに創出する取組を進めようとしています。このことについてどう思いますか。



問2. 「これからの緑の取組」では、保全した樹林地や水田、新たに創出した緑について、景観などの質を高める維持管理の充実をしようとしています。このことについてどう思いますか。



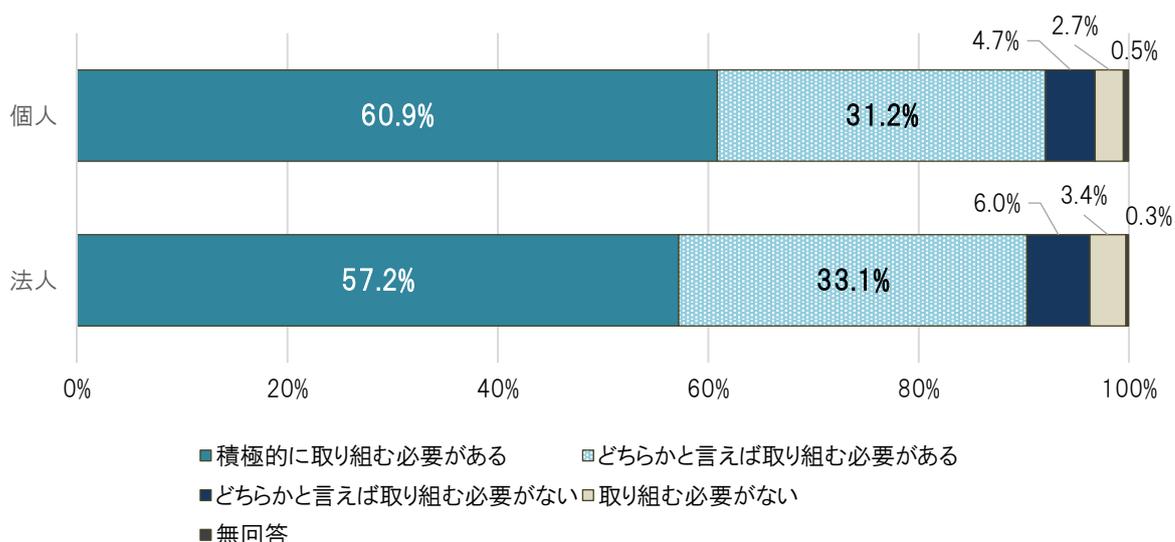
問3. 「これからの緑の取組」では、市民が緑に関われる機会を増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現する取組を進めようとしています。このことについてどう思いますか。



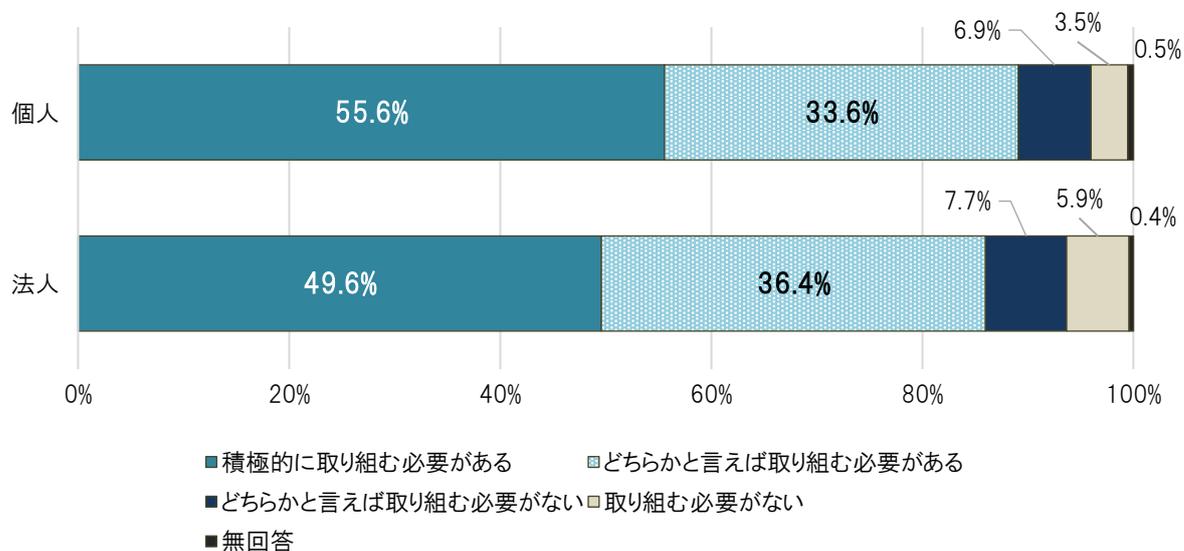
### 具体的な取組内容について（問4～6）

取組の柱1～3の各取組についても、個人・法人とも、8割～9割の方に「積極的に取り組む必要がある」又は「どちらかと言えば取り組む必要がある」とお答えいただきました。

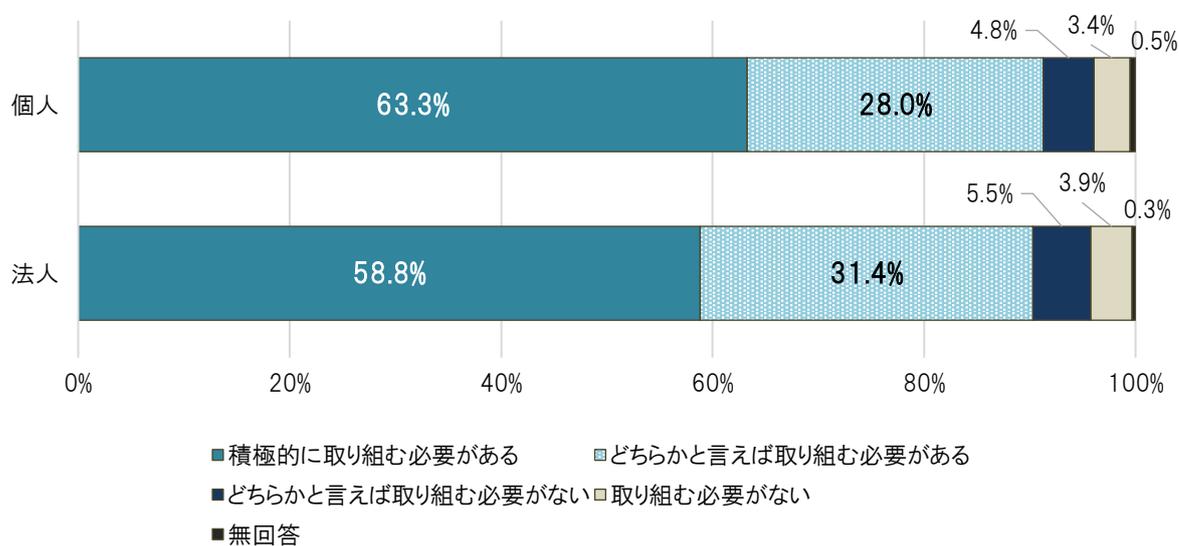
問4. 取組の柱1「市民とともに次世代につなぐ森を育む」では、緑地保全制度による指定の拡大や市による買取り、良好な森の育成、市民の森の開設など森に関わる多様な機会の創出に取り組めます。このことについてどう思いますか。



問5. 取組の柱2「市民が身近に農を感じる場をつくる」では、水田など良好な農景観の保全、農とふれあう場づくり、身近に農を感じる地産地消の推進や、市民や企業等と連携した地産地消の展開に取り組めます。このことについてどう思いますか。



問6. 取組の柱3「市民が実感できる緑や花をつくる」では、まちなかでの緑の創出・育成、緑や花あふれる地域づくり、子どもを育む空間での緑の創出・育成や、緑や花による魅力・賑わいの創出・育成に取り組めます。このことについてどう思いますか。

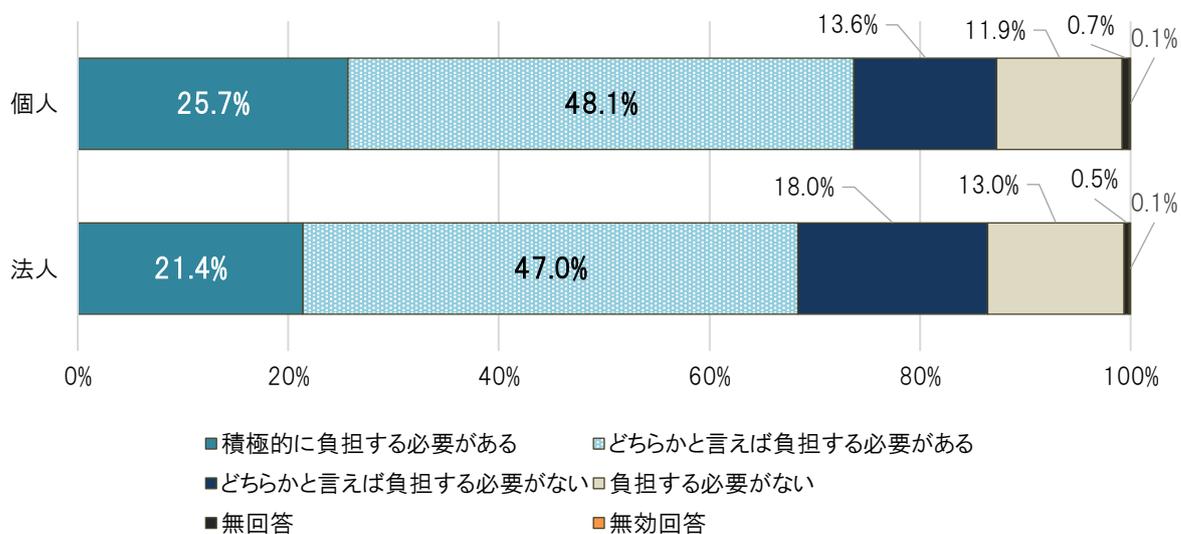


## 取組に必要な財源について（問7）

取組に必要な財源についての質問では、個人・法人ともに約7割の方に、「積極的に負担する必要がある」又は「どちらかと言えば負担する必要がある」とお答えいただきました。

問7. 「横浜みどりアップ計画[2019-2023]」では、2023年度まで市民の皆様（個人・法人）にご負担いただいている横浜みどり税を財源の一部に活用することで、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、緑の保全・創出を進めています。

「これからの緑の取組」に掲げた緑を保全・創出し、未来に引き継いでいくための施策を実施するためには、安定した財源が必要となります。その財源の一部を、横浜みどり税のように、市民が負担することについて、どう思いますか。



### 3 公募型自由記述方式の結果

寄せられたご意見を分類すると、次の一覧のとおりです。

分類		件数
1. 素案全体に関すること		21
	取組を支持するご意見	6
	理念や目標、計画の枠組みに関するご意見	2
	取組の進め方、優先順位に関するご意見	4
	取組の内容に関するご意見	8
	素案の表現に関するご意見	1
2. 柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む		15
	柱1に関するご意見	2
	樹林地の確実な保全の推進に関するご意見	3
	良好な森を育成する取組の推進に関するご意見	5
	森に関わる多様な機会の創出に関するご意見	4
	その他ご意見	1
3. 柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる		4
	柱2に関するご意見	0
	農に親しむ取組の推進に関するご意見	3
	地産地消の推進に関するご意見	1
4. 柱3 市民が実感できる緑や花をつくる		12
	柱3に関するご意見	4
	市民が実感できる緑や花をつくり、育む取組の推進に関するご意見	5
	緑や花に親しむ取組の推進に関するご意見	3
5. 効果的な広報の展開		7
6. これまでの成果に関するご意見		4
7. 税、財源に関するご意見		28
	税を支持、容認するご意見	8
	税を支持しないご意見	3
	負担低減や課税方法の変更を求めるご意見	2
	財源の検討に関するご意見	7
	税の使途・情報提供に関するご意見	7
	その他ご意見	1
8. その他		2
総計		93

#### 4 公募型自由記述方式でいただいた主なご意見とご意見に対する本市の考え方

1.素案全体に関すること (21件)	
主なご意見の主旨	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・素案全体とても大事な取組であり、積極的に進めてほしい。</li> <li>・緑の保全し、増やしていく取組は素晴らしい。地球温暖化や生物多様性につながる。</li> <li>・これまでの実績と成果が出ているので、継続してほしい。</li> </ul>	<p>取組にご理解いただきありがとうございます。緑の保全・創造のためには、継続した取組が必要です。2024年度以降も、市民の皆様にご協力をいただきながら、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を理念とし、取組を推進していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑は人が生活するうえで不可欠なものなので、量だけでなく質の高い維持が必要。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組」(原案)では、緑のもつ多様な機能を効果的に発揮させるよう、保全・創出した緑の質を高める良好な育成、活用を推進していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・規制による開発抑制や緑地保全が必須である。街なかを花などにより飾りつけるのではなく、里山のある街づくりに集中した施策を望む。</li> </ul>	<p>市内に残る多くの緑は民有地であるため、「これからの緑の取組」(原案)では、土地所有者のご理解やご協力を得ながら、緑地保全制度により樹林地を指定することで、土地所有者の税負担の軽減や維持管理助成などを講じ、樹林地の保全を進めていきます。また、土地所有者の不測の事態等に対応し、引き続き、樹林地の買取りを進め、緑の総量の維持を目指していきます。</p> <p>また、取組を進めるためには、取組の成果を実感できる街なかでの緑の取組も実施し、市民の皆様にご理解いただくことも重要だと考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の取組を、自然災害における2次災害防止の観点からも捉えてほしい。また、市民が緑や農に親しむ目的に、食の安全保障も加えてほしい。</li> </ul>	<p>緑には、火災延焼防止などの防災・減災に資する機能をはじめ、生物多様性を保全する機能など、多様な機能を有しています。「これからの緑の取組」(原案)では、これらの多様な機能が十分に発揮されるよう、緑の総量の維持を目指し、維持管理の充実を進めていきます。</p> <p>市内農畜産物の生産振興は、「これからの緑の取組」(原案)と整合を図りながら「横浜都市農業推進プラン」の取組として進めていきます。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>行政と市民が「地域」「まち」での緑の資源（樹林地・農地等）を踏まえた緑の将来像図を描けないか。地域ごとの緑の資源と課題、方向性を提起することが「協働による緑づくり」の起爆剤になる。</li> </ul>	<p>これまでも土地所有者の方をはじめ、ボランティア団体や教育機関等、様々な主体との連携により、緑の保全・創出を進めてきました。「これからの緑の取組」（原案）では、これらの取組を一層進めていくため、3つの柱の取組を一体的に推進しながら、保全・創出した緑を効果的に活用し、多様な主体との連携を一層広げ、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を目指していきます。取組を進めるなかで、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが安心して遊べる緑が多い公園をもっとつくってほしい。</li> <li>公園の緑をさらに充実させたほうがいい。</li> </ul>	<p>本市では、「これからの緑の取組（原案）」のほかに公園事業にも取り組んでいます。公園事業を行うにあたっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。なお、「これからの緑の取組」では、都市公園内のまとまった樹林地も対象として、良好な森づくりを進めています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>前回と同じ内容を繰り返しているだけに見える。</li> </ul>	<p>これまで取り組んできた「横浜みどりアップ計画」は、緑地保全制度による樹林地の保全や、地域での緑の創出が進むなどの成果が上がっています。「これからの緑の取組（原案）」では、これらの成果を踏まえ、計画の理念や目標像、基本的な枠組みや主な取組を継承しています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の進め方にある、取組の1から3のつながりが感じられません。活動のなかでつながりをもつようにしてほしい。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組（原案）」では、保全・創出した緑を効果的に活用し、多様な主体との連携を一層広げるために、各柱の取組を一体的に推進していくことが重要であると考えています。いただいたご意見を参考とさせていただきますながら、取組を推進していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生、大学生の参加を増やせる取組を充実してほしい。</li> </ul>	<p>これからの時代を担う高校生や大学生などの若年層の皆様と一緒に取組を進めていくことは重要であると考えています。</p> <p>「これからの緑の取組」を進めるなかで、高校生や大学生などの若年層の市民との連携を図っていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域」「街」「まち」は、どういう意味で表現を区別しているのか。それぞれの意図に照らして的確に表現するべき。</li> </ul>	<p>「地域」は「街」より比較的狭い範囲を示す言葉として表現させていただきました。</p>

## 2.柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む（15件）

### 主なご意見の主旨

### 本市の考え方

- ・何ヘクタールの保全といっても実感がわかない。

取組の実績を示すものとして数量は重要であると考えています。一方で、市民の皆様にも成果を実感していただきやすい表現となるよう市域図で示すなど引き続き工夫していきます。

- ・樹林地を保全するのは素晴らしいが、土地を買いすぎだと思ふ。買わなくて済む手法を考えてほしい。

市内に残る樹林地の多くは民有地であることから、土地を所有する方が、できるだけ持ち続けられるよう支援することが必要です。「これからの緑の取組（原案）」では、樹林地所有者の方の維持管理負担を軽減する支援を充実させていきますが、一方で、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐために、所有者の方に不測の事態等が発生し、市へ土地の買入れ申し出があった場合には、市が買取りに対応していくことも必要であると考えています。

- ・保全を積極的に進めるとともに、森の育成にも力を注いでほしい。
- ・森づくりをしっかり行い、カブトムシやクワガタがとれるような里山をつくってほしい。
- ・保全した樹林地についてきちんと手入れしてほしい。

「これからの緑の取組」（原案）では、緑のもつ多様な機能を効果的に発揮させるよう、保全した緑の質を高める良好な育成、活用を推進していきます。

- ・崖地対策は重要である。

「これからの緑の取組（原案）」では、保全した樹林地について、のり面の安全対策の整備や、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮した良好な森づくりを進めます。

- ・保全した樹林地が市民の森のように市民利用できるようになるならとても良いと思う。
- ・樹林地の指定目標は面積でなくてもいいと思う。市民の森なら閉鎖型の3倍の価値がある。
- ・樹林地で秘密基地づくりや学校の自然学習、ファミリーキャンプなどできると面白いと思う。

保全した樹林地の利活用を進められるよう、「これからの緑の取組（原案）」では、「市民の森」の開園や、樹林地の機能を保ち、魅力を高める利活用計画の検討、地域に応じた多様な利活用を進めていきます。

- ・樹林地整備で発生した枯損木を活用できないか。枯損木から加工された木工品に触れること等により、現地に行かずとも樹林地の存在を実感し、想いを馳せる機会を創出することが大切だと思う。

維持管理で発生した間伐材については、樹林地の特性に応じ、現地で利用することや、森を楽しむきっかけづくりとしてクラフトキットを作成し、配布することを考えています。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・私有地の竹林も景観保全など近隣住民の公共財になっていることを鑑み、放置竹林の間伐などにも新たに取り組んでほしい。</li> </ul>	<p>緑地保全制度に指定した樹林地については、竹林についても外周部の伐採や内部の枯れ竹の撤去処分等の作業の費用の一部を助成する支援を行っています。</p>
---	---

### 3.柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる（4件）

<p style="text-align: center;"><b>主なご意見の主旨</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>本市の考え方</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業専用地区内の道の一部を、散歩しやすい道として整備していただきたい。農業専用地区内の道を周辺住民が気軽に散歩できる道として整備すれば、周辺住民にとって農がより身近になり、農景観を良くしていく意欲も高まると期待できる。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組（原案）」では、良好な農景観を形成するため、まとまりのある農地を良好に維持する団体への活動に対して、水路等での清掃活動や、農地縁辺部への植栽などに対して支援をしていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部での農とのふれあいは耕作ではなく、市内産の農畜産物を食べると思う。</li> <li>・農園付公園が都心部にあるより、花や手入れされた芝生のほうがいい。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組（原案）」では、身近に農を感じる機会をつくる取組として、地産地消も推進していきます。</p> <p>また、農地が少ない都心部でも農作業を楽しみたいというニーズもあることから、市内各地で農とふれあう場づくりを展開していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農園付公園の利用料は安すぎると感じる。同じ値段のまま都心部で行った場合、人気が出すぎるのではないか。</li> </ul>	<p>利用料検討の際には、いただいたご意見を参考とさせていただきます。</p>

### 4.柱3 市民が実感できる緑や花をつくる（12件）

<p style="text-align: center;"><b>主なご意見の主旨</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>本市の考え方</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部など緑の少ない地域で緑が増えるようにしてほしい。</li> </ul>	<p>平成21年度以降取り組んできた「横浜みどりアップ計画」では、既存の緑地（樹林地）の保全を根幹の取組として、特に重点的に進めてきました。市内に残る樹林地の多くは民有地であり、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐためには、土地を所有する方ができるだけ持ち続けられるよう支援することが必要です。まだ、それらの保全すべき樹林地が多く残っているため、「これからの緑の取組」（原案）でも、引き続き緑地の保全に取り組んでいきます。</p> <p>また、緑の取組の成果を実感できる取組を実施し、市民の皆様にご理解いただくことも重要だと考えています。そのため、「これからの緑の取組」（原案）では、緑を実感でき、街の魅力を高める取組を一層進めていくこととしています。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・みなとみらいエリアで、ニューヨークのセントラルパークのような公園に人が訪れる、公園で観光誘致できるような公園メインのまちづくりをしてほしい。圧倒的に緑が少ない。</li> </ul>	<p>本市では、「これからの緑の取組（原案）」のほかにも公園事業にも取り組んでいます。公園事業を行うにあたっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・美しい街路樹が育成できるような十分な管理をお願いしたい。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組（原案）」では、引き続き市民の皆様が目にする機会が多く、街並みの美観向上に寄与する街路樹を良好に育成するため、あらかじめ定められた路線について、通常の維持管理よりも管理水準を高めた管理を行っていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部に住む人間として、高質な緑化はありがたい、量よりも質にこだわり事業を進めてほしい。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組（原案）」では、引き続き緑や花による魅力的な空間づくりを進め、街の魅力の向上や賑わいの創出につなげていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際園芸博覧会の開始に向けた積極的な取組をお願いしたい。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組（原案）」では、2027年の国際園芸博覧会の開催も見据え、多くの人が訪れる市街地や、生活に身近な住宅地などでの緑や花の創出、育成を進めていきます。</p> <p>また、これまで市民や企業の皆様との協働によって培われてきた緑や花の取組をさらに展開することで、国際園芸博覧会の開催に向けた機運醸成にもつなげていきたいと考えています。</p>

## 5.効果的な広報の展開（7件）

### 主なご意見の主旨

### 本市の考え方

<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の10大拠点の近くに住んでいない市民にも電車やバスでどう移動すれば緑の多い場所に行けるのか、どの季節に行けばどのような風景が見られるのかをわかりやすく広報してほしい。</li> </ul>	<p>緑の多い市民の森・ふれあいの樹林について、アクセス等を記載したガイドマップを作成し、市ウェブページに掲載しているほか、イベント等で積極的に配架を行っています。</p> <p>今後も、散策できる森や野菜の収穫体験、緑や花にふれるイベントなどの紹介や、市民の皆様が活用できる制度のご案内、美しい緑や花など取組を実感できる動画の配信などを行っていきます。</p>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントや体験について情報を得ようとしなければ得られないので、もっと駅などにポスターを掲示したり、小学校等で配布したりしてほしい。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組（原案）」では、市民の皆様が緑の取組を体感し、活用できる取組を広報媒体の特性を生かしながら効果的に紹介していきたいと考えています。</p> <p>いただいたご意見を参考にしながら、効果的に情報発信していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり税を使った成果のアピールが足りないように感じる</li> </ul>	<p>これまでの実績については、毎年度横浜みどりアップ計画の実績概要リーフレットを作成し、市連会・区連会に報告を行うほか、市ウェブページや区役所、駅などのPRボックスに配架しています。また、広報よこはまや電車・バスの車内広告など、様々な媒体で情報発信に努めています。</p> <p>「これからの緑の取組」（原案）のなかでも、取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者の皆様理解されるとともに、緑を楽しむ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、広報媒体の特性を生かし、効果的な情報発信を進めていきます。</p>
<p><b>6.これまでの成果に関するご意見（4件）</b></p>	
<p style="text-align: center;"><b>主なご意見の主旨</b> <span style="float: right;"><b>本市の考え方</b></span></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の森を増やせたことはとても良かったと思う。港の見える丘公園や山下公園のバラは見事。</li> </ul>	<p>これまで取り組んできた横浜みどりアップ計画を通じて、樹林地の保全が進み、市民の皆様が気軽に森に入り、森に親しむことができる市民の森の整備を進めてきました。また、多くの市民の皆様が集まる都心部の公共空間などでは、緑や花による空間づくりを集中的に展開し、街の魅力の向上、賑わいづくりを進めています。</p> <p>引き続き、緑の保全・創出の取組を進めるとともに、取組の成果を実感できる取組を積極的に進めていきます。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 成果があがっていると記載があるが、実感がない。</li> </ul>	<p>これまで取り組んできた横浜みどりアップ計画は、緑地保全制度による樹林地の保全や、地域での緑の創出が進むなどの成果があがっています。また、多くの市民や観光客が訪れる都心臨海部で、街の賑わいを生み出す緑の創出が進展したことや、緑の少ない区で緑豊かな公園の整備に取り組むなど、より実感につながる取組を進めてきました。「これからの緑の取組」（原案）では、緑を実感でき、街の魅力を高める取組を一層進めていきます。</p> <p>また、これまでの実績については、毎年度横浜みどりアップ計画の実績概要リーフレットを作成し、市連会・区連会に報告を行うほか、市ウェブページや区役所、駅などのPRボックスに配架しています。また、広報よこはまや電車・バスの車内広告など、様々な媒体で情報発信に努めています。</p> <p>「これからの緑の取組」（原案）のなかでも、取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者の皆様に理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、広報媒体の特性を生かし、効果的な情報発信を進めていきます。</p>
---	---

7.税、財源に関するご意見（4件）	
主なご意見の主旨	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 緑の取組も大事なので、予算をしっかり配分してほしい。</li> <li>• 緑の取組に関する財源は、一般財源のなかで確保すべき。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組」（原案）の実施に必要な財源については、現在検討を行っていますので、いただいたご意見も参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでの実績と成果が出ているので、みどり税を継続してほしい。</li> <li>• 1000円／年、1200円／年になってもいい。</li> <li>• 企業の税率はもう少し高くてもいいのではないか。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組」（原案）の実施に必要な財源については、現在検討を行っていますので、いただいたご意見も参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• みどり税は、偏った地域に活用しているため、徴収は止めてほしい。</li> <li>• 900円／年は高い。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組」（原案）の実施に必要な財源については、現在検討を行っていますので、いただいたご意見も参考にさせていただきます。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり税の徴収は止め、大企業の法人課税を引き上げて横浜の緑に貢献したい企業だけ誘致すればいい。</li> <li>・観光客からも徴収できる仕組みをつくったほうがいい。</li> <li>・企業に、市内で排出している二酸化炭素の分をカーボンオフセットで払ってもらい、市内の樹林地管理費用にあてたらいい。</li> <li>・市債を発行し、未来の市民にも負担してもらいたい。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組」（原案）の実施に必要な財源については、現在検討を行っていますので、いただいたご意見も参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・街路樹へ予算を使いすぎないでほしい。</li> </ul>	<p>「これからの緑の取組（原案）」では、駅周辺や各区の主要な路線を中心に、多くの市民の皆様目にふれ、街並みの美観向上に寄与する街路樹を良好に育成していきます。そのため、通常の維持管理よりもきめ細やかに行う維持管理や、地域で愛されている桜並木等の再生に必要な事業費を計上しています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園愛護会への支援をみどり税で充実すべき。</li> </ul>	<p>公園愛護会への支援については、一般財源の事業として取り組んでいきます。一方、「これからの緑の取組（原案）」では、「地域に根差した緑や花の楽しみづくり」において、公園愛護会も含めた様々な主体と連携した緑や花を育む活動を支援し、取組を推進していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり税の使途「維持管理の充実によるみどりの質の向上」のなかで、外来種対策が必要</li> </ul>	<p>市民の森などでは、森の植生や機能、周辺環境などを踏まえて、目標とする森の将来像や管理方法を定める「保全管理計画」を森ごとに策定し、それに基づき、昆虫や野鳥などにも配慮した、森の保全・育成・活用に取り組んでおり、今後も引き続き進めていきます。</p>